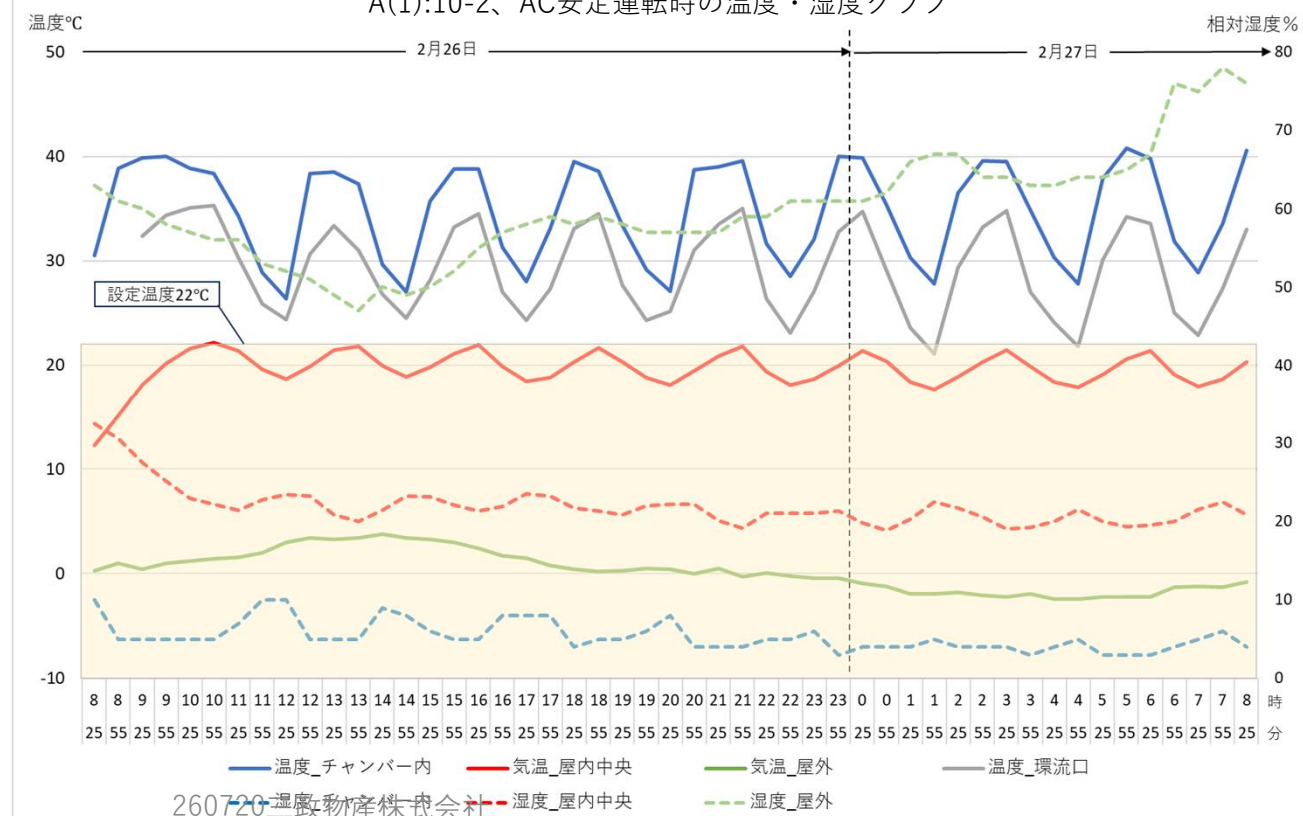


床下に電源・LANケーブル等を敷設する場合は、温風が通風しない気流制御板下部(床下チャンバーを除く)に基礎床転がし配管します(図表A(1):10-1)。

- FRA-Tacsの暖房時の環境調査(AC設定温度22℃)によると、床下チャンバー内の平均温度は34.8℃(最高40.8℃)、環流口からの吹出風の平均温度は29.3℃(最高35.3℃)でした(A(1):10-2)。つまり、床下チャンバー及び流路における気温は30℃～40℃前後であると推察します。
- 気温が40℃を越え始めると許容電流の減少や通信速度の低下等のリスクが生じるため、ケーブルを床下チャンバー及び流路内に敷設することは推奨できかねます。原則、気流制御板(遮蔽板)の下部に基礎床転がし配管することを推奨します(A(1):10-1)。
- 床面に電源コンセント等を設置するためにケーブルが流路を貫通する場合は、断熱性のある配管を使用します。なお、OAフロアを導入される場合は、「FRA-Tacs置床タイプ(OAフロア)」を推奨します。



A(1):10-2、AC安定運転時の温度・湿度グラフ



■ 摘要 調査対象：札幌市 某小学校多目的ホール、調査日時：2024年2月26日～27日、外気温：-0.9℃～3.9℃、AC設定温度：暖房22.0℃